

○天草市地球温暖化防止実行計画 平成29年度実施の状況

1 温室効果ガス総排出量の比較

市施設における平成29年度温室効果ガス総排出量は、基準年度(平成18年度)と比較して約1.1%減少しました。

温室効果ガス排出量が減少した主な要因としては、平成28年の熊本地震で被害を受けた本庁舎解体に伴い、重油焚きの空調設備を使わなくなったことや本渡衛生センターの廃止に伴うA重油使用量の減少が大きな要因と考えられます。

	排出量(kg-CO ₂)	増減率
基準年度(平成18年度)	4,123,925	
算定年度(平成29年度)	4,078,829	-1.1%
目標年度(平成30年度)	3,670,293	-11.0%

2 電気・エネルギー使用量の比較

電気やエネルギーの使用量を比較するとLPG使用量及び都市ガス使用量は増加していますが、電気使用量、A重油使用量、灯油使用量、ガソリン使用量及び軽油使用量は減少しています。

項目(単位)	基準年 (平成18年度)	算定年 (平成29年度)	増減	増減率
電気使用量(kWh)	7,294,634	7,133,966	-160,668	-2.2%
A重油使用量(L)	121,576	23,078	-98,498	-81.0%
LPG使用量(m ³)	13,558	14,256	698	5.1%
都市ガス使用量(m ³)	94,308	96,682	2,374	2.5%
灯油使用量(L)	6,741	5,516	-1,225	-18.2%
ガソリン使用量(L)	189,753	111,066	-78,687	-41.5%
軽油使用量(L)	17,929	8,320	-9,609	-53.6%

3 温室効果ガス総排出量増減の主な理由

【基準年と比較して増加した要因】

・平成28年の熊本地震で被害を受けた本庁舎機能を分散配置したことによる利用施設の増加に伴い、LPG使用量及び都市ガス使用量が増加。

電気の使用に伴う二酸化炭素排出量は、電力会社で1 kWhの電気を作り出す際に排出される二酸化炭素の量(排出係数)に応じて計算されます。

東日本大震災以降、二酸化炭素を多く排出する火力発電の割合が増加していることから、基準年度の排出係数は0.375でしたが、平成29年度は0.438となり、本市の温室効果ガス総排出量の8割近くを占める電気使用に係る二酸化炭素排出量は、約14.2%増加しました。

仮に、基準年度(平成18年度)における排出係数に置き換えて計算した場合、本市の温室効果ガス総排出量は3,613,429kg-CO₂となり、基準年と比較しておよそ12.4%削減となります。

【基準年と比較して減少した要因】

- ・算定対象施設の廃止。
- ・省エネルギーの取組みによる燃料使用量の減少。
- ・高効率照明などの省エネ機器の導入による燃料使用量の減少。
- ・低燃費車の導入、公用自転車の活用、エコドライブの実践などによる公用車燃料使用量の減少。
- ・本庁舎の解体による重油使用量の減少。